

皮の処理方法 (アラスカの場合)

北極の舟、カヤックにしるウミアックにしる、もとは海獣の皮（主にアザラシの皮）が張ってありました（アラスカのウミアックは、今も海獣の皮を使っているものがあります）。その海獣の皮、そのまま張ると、毛の生えた重たい舟になってしまうので、どうにかして毛を抜くわけです。以前、グリーンランドのジョンに方法を聞いたところ、かの地の場合、アザラシの皮から毛を抜くためには、人間の尿に漬けておくと言っておりました。

ちなみに鹿の皮から毛を抜くには、石灰を水に溶かしてアルカリ性にして、そこへ漬けておくと、ごっそりと抜け落ちます。ただし、鹿皮に防水性は一切ないので、舟には使えません。

さて。アラスカのポイントホープという町では、つい数年前まで、アゴヒゲアザラシの皮を張ったウミアックが主流でした。今回は、このアゴヒゲアザラシの皮の処理方法についての解説です。

最初にお断りしておきますが、これはアラスカのポイントホープの手法です。町、地域によって、手法は異なる可能性がありますので、ご了承ください。

アゴヒゲアザラシの猟期は5月から6月。捕らえた



アゴヒゲアザラシの皮を剥ぎます。皮に脂肪が残らないよう、

穴を開けないように丁寧に作業します。

剥いだ皮は、ごみ袋などのいわゆるビニール袋に入れて、海岸の砂に埋めておく、あるいは物置などに2ヶ月ほど放置しておきます。夏にかけて、気温は15度以上になることもあり、袋の中で皮は熟成されて

いきます。密閉してあるはずなのに、ハエが卵を産み、ウジが湧きます。

2ヶ月後、恐る恐る袋を開けると、強烈な異臭が鼻を突きます。



この時点で毛はかなり抜け落ち、黒っぽい表皮も剥がれています。



皮に紐をつけて海に投げ込み、海水でよく洗うことで、残った毛もほとんど抜け落ちます。

この皮をぶら下げた状態で、わずかに残った毛や、裏側に残った脂肪を、ウル（扇型のナイフ）を使い、丁寧に落とすしていきます。

腐ったようなこの匂い、手につくとなかなか取れません。



綺麗になったら、あとは乾燥させてしまえば、何年か保存できます。

使用する際には、しばらく海水につけて柔らかくして、防水スティッチで縫い合わせれば、ウミアックに張る皮のできあがりです。

文責：高沢進吾